

令和5年度水生生物調査の結果について

愛知県では、身近な自然とふれあうことで、県民の皆様の環境問題への関心を高めていただくこと等を目的として、夏休み期間中を中心に、昭和60年度から河川の水生生物調査を実施しています。

令和5年度は、小中学校や地域住民グループなど63団体1,336人の参加により、59河川89地点で調査が行われました。

【調査の方法及び調査結果の概要】

- 水生生物調査で見つかった生物の種類と数に応じて、調査した河川の水質をⅠ（きれいな水）、Ⅱ（ややきれいな水）、Ⅲ（きたない水）及びⅣ（とてもきたない水）の4階級で判定します。
- 今年度は、59河川89地点で調査を行った結果、水質階級Ⅰと判定されたのは34地点（38.2%）でした。
- 木曾川・庄内川等水系では上流で、天竜川・豊川等水系では上流から下流までで水質階級Ⅰの地点が多く見られ、矢作川等水系では中流で水質階級ⅠやⅡの地点が多く見られました。





1 調査の概要

この調査は「川の生きものを調べよう」（環境省水・大気環境局、国土交通省水管理・国土保全局編）に基づき行っています。

水生生物の中には、その生息状況が水質汚濁に影響されやすい生物があり、これら水生生物を指標として水質を判定することができます。全国的に広く分布し、分類が容易で、水質に係る指標性が高いカワゲラ類はじめ29種類を「指標生物」としています。

指標生物は水のきれいさの程度に応じて4つの階級に分類されており、見つけた指標生物の種類と数から、水質を判定します。

水質階級と指標生物の関係

水質階級Ⅰ (きれいな水)	水質階級Ⅱ (ややきれいな水)	水質階級Ⅲ (きたない水)	水質階級Ⅳ (とてもきたない水)
カワゲラ類 ヒラタカゲロウ類 ナガレトビケラ類 ヤマトビケラ類 アミカ類 ヨコエビ類 ヘビトンボ ブユ類 サワガニ ナミウズムシ 	コガタシマトビケラ類 オオシマトビケラ ヒラタドロムシ類 ゲンジボタル コオニヤンマ カワニナ類 ヤマトシジミ イシマキガイ 	ミズカマキリ ミズムシ タニシ類 シマイシビル ニホンドロソコエビ イソコツブムシ類 	ユスリカ類 チョウバエ類 アメリカザリガニ エラミミズ サカマキガイ 
ヘビトンボ	コオニヤンマ	イソコツブムシ類	アメリカザリガニ

2 調査結果の概要

(1) 実施期間

令和5年6月から9月まで

(2) 実施地点

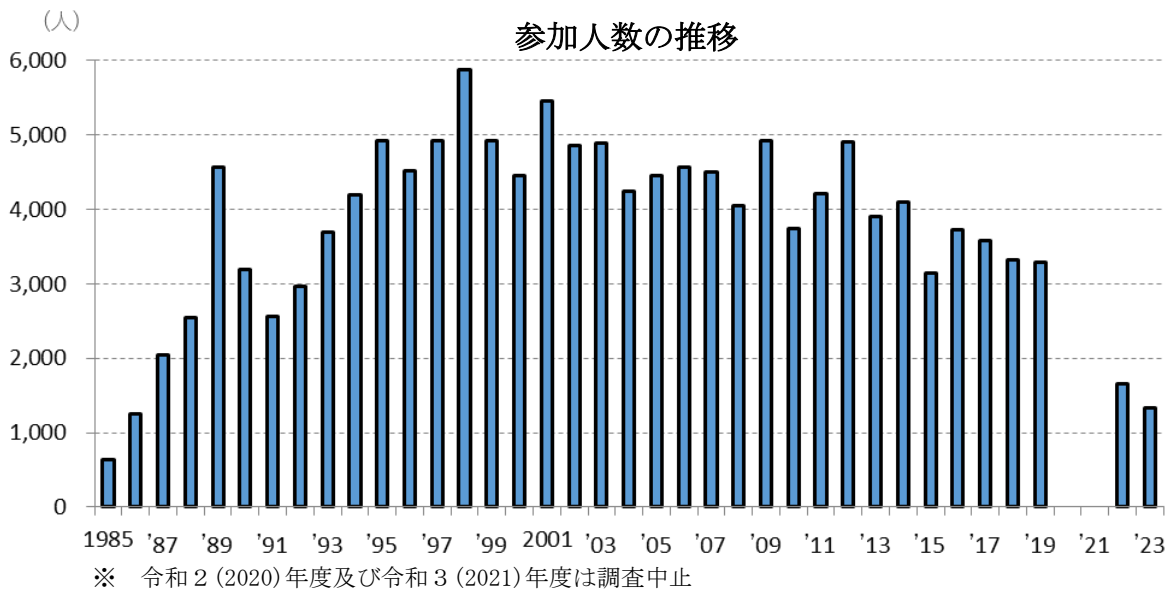
調査河川数：59河川（前年度 60河川）

調査地点数：89地点（前年度 105地点）

(3) 参加団体数及び人数

63団体 1,336人（前年度 76団体 1,660人）

区分	参加人数（前年度）	参加団体数（前年度）
小中学校	656人（1,179人）	14団体（25団体）
観察会	494人（179人）	12団体（4団体）
地域住民グループ等	186人（302人）	37団体（47団体）
計	1,336人（1,660人）	63団体（76団体）



(4) 水質階級の状況

令和5年度は89地点（前年度105地点）で調査が行われました。

調査の結果、木曾川・庄内川等水系では上流で、天竜川・豊川等水系では上流から下流までで水質階級Ⅰ（きれいな水）の地点が多く見られ、矢作川等水系では中流で水質階級Ⅰ（きれいな水）やⅡ（ややきれいな水）の地点が多く見られました。

主要水系別水質階級地点数

	水質階級Ⅰ	水質階級Ⅱ	水質階級Ⅲ	水質階級Ⅳ	判定不能 ^{※1}	合計
調査全体	34 (38.2%)	14 (15.7%)	7 (7.9%)	12 (13.5%)	22 (24.7%)	89
木曾川・庄内川等水系	12 (57.1%)	3 (14.3%)	3 (14.3%)	3 (14.3%)	0 (0.0%)	21
境川等水系	2 (15.4%)	2 (15.4%)	0 (0.0%)	6 (46.2%)	3 (23.1%)	13
矢作川等水系	5 (14.3%)	6 (17.1%)	3 (8.6%)	2 (5.7%)	19 (54.3%)	35
天竜川・豊川等水系	15 (75.0%)	3 (15.0%)	1 (5.0%)	1 (5.0%)	0 (0.0%)	20
前年度(参考) ^{※2}	39 (37.1%)	26 (24.8%)	6 (5.7%)	10 (9.5%)	24 (22.9%)	105

※1 指標生物が見つからなかった地点。

※2 調査地点は参加者が任意に選定しており、毎年同じ地点ではないことから、前年度との比較はできません。